

経営紹介

1

大中型まき網漁業の未来に向けて

—ミニ船団化により低コスト経営の実現へ—



青森県八戸市
(株)福島漁業

代表取締役社長 福島 哲男氏

経営概要

設立	昭和41年2月
資本金	95百万円
従業員	208名
事業内容	大中型まき網漁業、沖合底曳網漁業、 大型イカ釣漁業

青森県八戸市は日本有数の漁港として知られており、古くから沖合・遠洋漁業も盛んな地域です。特に、多数のイカ釣漁船を擁し、イカの水揚げ日本一の漁港として有名です。(株)福島漁業は、この水産都市八戸で古くから漁業を営む漁労会社で、大中型まき網漁業3ヶ統、沖合底曳網漁船1隻、大型イカ釣漁船1隻と、地域でも有数の規模を誇っています。

しかし、沖合・遠洋漁業を取り巻く環境は近年その厳しさを増しており、漁獲資源量の減少や沿岸漁業者との調整など、従来からの課題に加え、近年は原油価格の高騰による影響も危惧される状況にあります。このような状況下でありながら、当社は昨年度に従来型のまき網船団のうち1ヶ統のミニ船団化を実施しました。本稿では、当社が実施した大中型まき網漁業のミニ船団化に関して、その事業目的や概要、今後の展望等を紹介します。

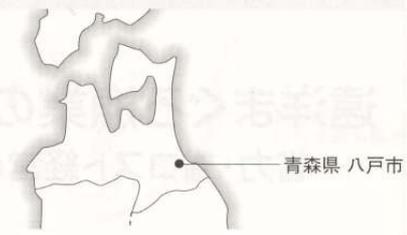
大中型まき網漁業のミニ船団化とは

従来型の大中型まき網漁業は、網船(本船)1隻を中心に、探索船(魚探船)1~2隻、運搬船2~3隻の合計4~5隻で1船団(1ヶ統)を形成します。探索船が魚群を探索し、探し当てたポイントで網船が漁を行い、運搬船で漁港まで輸送するという一連の工程を、それぞれの機能を有する船で行っています。

しかし、漁獲資源の減少等が危惧される中、(財)水産総合研究センターなどで、従来の漁獲量に依存する高コスト型の船団形態より少ない漁獲量でも利益確保可能な低コスト型の船団形態についての研究が進められてきました。その結果、低コストかつ利益追求型の船団形態として、網船1隻と運搬船1隻の計2隻で1船団を形成する「ミニ船団化」について検討が進められ、その有効性について試験船「北勝丸」などを利用した実証試験も行われているところです。

契機・背景事情

漁獲資源の減少等の影響は、従来型のまき網3ヶ統を操業する当社にとっても例外ではなく、低コスト・利益追求型の経営への変化は必要不可欠な課題であり、早くから「北勝丸」の操業データ等について情報収集を行っていました。平成14~15年と、当社まき網船団の中心的操業海域である北部太平洋海域でのマグロの不漁やサバの資源不足等により水揚げ高が低下する中、漁獲量の安定したカツオを主体とした操業でも利益を確保できる操業形態への移行が必要不可欠であるとして、所有するまき網船団3ヶ統のうち1ヶ統のミニ船団化を計画し、平成16年にミニ船団の網船となる第88惣寶丸の建造に着手しました。



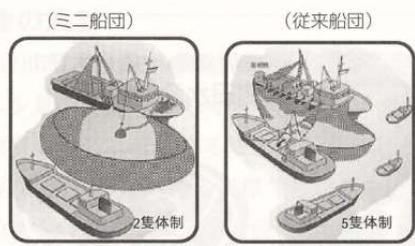
ミニ船団の網船 第88惣寶丸

ミニ船団は新造する第88惣寶丸（網船・300t型）と従来から使用している運搬船の計2隻とするものですが、建造費は15億円にも上るものでした。新たな操業形態への変化に伴う乗組員の戸惑いや事故、多額の建造費など様々なリスクを抱えることとなりますが、「当社が漁労会社として今後も生き残っていく唯一の道としてミニ船団化に踏み切るんだ」と、代表取締役社長の福島哲男氏は決意を込めて話されていました。

ミニ船団化のメリットと今後の展望

当社が保有する従来のまき網船団と新たに導入したミニ船団の概要は表のとおりです。網船を135t型から300t型に大型化するとともに、魚探・運搬機能を兼ね備えたものとしています。このミニ船団化により想定されるメリットとしては次のようなことが挙げられます。

- ①船団を構成する漁船隻数の減少（4隻⇒2隻）により、人件費や燃料費等のコスト削減が図られる。
- ②網船の大型化により乗組員の居住スペースが拡大され就業環境の改善につながるほか、天候悪化時の安全操業にも資する。
- ③網船への冷凍・冷蔵機能の付加による漁獲物の品質低下の抑制（漁獲物の付加価値向上）。



出典:水産庁 漁船漁業構造改革推進会議より

ミニ船団化には前述のような利点があり、収益性の観点から言えば、水揚高は減少するが、それ以上のコスト削減効果により利益額は増加することが期待できる、ということが言えるでしょう。特にコスト削減効果としては、人件費（給与、福利厚生費、賄費、船員保険料等）において3割以上の減少が図られる見通しであり、燃油使用量も1割強の減少が図られ、修繕費等についても抑制できる見通しです。

当社のミニ船団は、操業後1年を経過していないことから経営実績の分析等はこれからとなりますが、今後、より一層の漁業資源管理下での操業が求められると予想される中で、いかにして収益性の高い操業を実現するかが現在の漁業経営に求められています。当社が全国でも先駆けて実施したまき網漁業のミニ船団化が、厳しさを増す漁業経営環境下においても持続可能で希望の持てる操業実績を残していただけるものと期待しています。

（リポーター 阿部純也 青森支店）

表 ミニ船団と従来型のまき網船団の概要

区分	ミニ船団 (第88惣寶丸まき網船団)	従来のまき網船団 (当社所有)
網船	300t型×1隻	135t型×1隻
運搬船	330t型×1隻	245t型×1隻、330t型×1隻
探索船	無し(網船に探索機能を付加)	98t型×1隻
乗組員	1船団当たり総勢30名程度	1船団当たり総勢50名程度